

今週の研究:今週は、過剰を成功と考える時代にあつて、節制の大切さについて考えます。多くの場合は、節制とはかく忘れられがちな重要な要素です。真の節制とは何か、主が私たちに節制を望まれるのはなぜか、といったことについて学んでみましょう。

水曜日:節制とは、単にタバコを吸わない、違法薬物を使用しない酒を飲まない、あるいは茶やコーヒー清涼飲料を飲まない、といった問題ではありません。というのは、たとえ体によいものであつても、取りすぎると問題を引き起こすことがあるからです。

エレン・ホワイトは節制の本質を次のように要約しています。「真の節制は、有害なものを全く使用せず、健康的なものを適度に使用することを教える」。

木曜日:聖書は住まいとしての体の重要性について述べています。この住まいは私たち自身の恩恵のため、思想、計画、行動のためだけのものではありません。私たちの身体は、実際のところ、神の神殿なのです。何という特権、また責任でしょう。私たちは自分の身体よりも、自分の家を手入れすることに気を配っている場合があります。

神は天を空にして、私たちの贖いのためにイエスの地を流されるのをお許しになりました。私たちは自分自身のものではありません。私たちは贖われ、神に属するもの、すべてを神に負う者となりました。これには、自分の身体を忠実に管理することも含まれます。

金曜日:タバコの箱には警告文が書かれていますが、多くの人はこれを無視しています。情報は実行されない限り、何の抑止効果ももたらしません。

「聞け。あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたたちは確かに生かされる。またその預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる。」(歴代下20:20)

食事の習慣が健康や品性や、この世での有用性や、また永遠の運命とどれほど深いつながりがあるか、それを自覚している人は本当に少ないものです。食欲はつねに道徳的、知的力に従わせなければなりません。体が精神に仕えるべきであつて、精神が体に仕えるようであつてはならないのです。

最も苦手なことは「節制」「継続」など…。こういうわたしにとって、最も苦手な課がやってきてしまいました。わたしのような生き方をしなければ、という節制の反面教師ような人間なので…。

そのわたしの最も響いた言葉は、金曜日の「情報は実行されない限り、何の抑止効果ももたらしません」でした。健康の原則について学んでも、本人がやろうとしなければ意味がありません。

いかにして、その気にさせるかではないかと思いますが、クリスチャンには木曜日の学びの価値観があります。体は、命は神さまから貸与されたものであり、その使い方に責任があるのです。

そしてそれを最善に生かすときに、わたしだけでなくまわりの人の祝福となるという神さまのみこころの実現にもなるのです。それはわかっていても、やはりおいしいものがあつたら食べ過ぎてしまうし、体を動かすのはめんどろだし…困ったものですね。